

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0 1 7 3 6 0 0 1 2 3		
法人名	社会福祉法人 緑陽会		
事業所名	グループホーム竹とんぼ		
所在地	苫小牧市字樽前 2 2 2－1 1		
自己評価作成日	平成25年11月1日	評価結果市町村受理日	平成26年1月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0173600123-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・豊かな自然環境に囲まれており、四季の移り変わりを感じて頂ける様に入居者様のケアに取り入れている。又、地域の行事の運動会等に参加したりと地域交流にも努めている。 ・入居者様一人ひとりの思いや希望を理解した中で、スタッフはどうケアするか常に考えながら、共に過ごし生活スタイルを尊重した中で、その人らしく穏やかに安心、安全な暮らしができる様に支援している。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北 1 条西 7 丁目 1 番 あおいビル 7 階
訪問調査日	平成 2 5 年 1 1 月 2 8 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、社会福祉法人緑陽会を母体とし、特別養護老人ホームと併設して建てられています。 広大な敷地内には木々や草花が多く、時折ホーム周辺には鹿やリスが顔を出し、利用者の楽しみになっており、四季の変化が感じられる豊かな自然環境の中で生活をしています。地域との触れ合いを大切にしており、近隣小学校の行事や地域の祭典などへ参加すると共に、ホーム行事にも参加して頂くなど交流を深めています。併設の特別養護老人ホームの看護師の健康管理や 2 4 時間対応の協力医療機関の連携が確保されており、利用者と家族の安心に繋がっています。家族の来訪も多く職員は来訪しやすい雰囲気づくりに努めています。施設長と職員は、利用者の主体性並びに人権を尊重した理念を基に利用者が安心して穏やかに暮らしつづけられるよう熱意をもって日々ケアサービスを実践しています。重度の利用者に対しても丁寧に見守りをしています。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、スタッフルームに理念を掲示し、常に意識して実践につなげている。 又、毎月のケア会議の中で全員で確認し共有している。	開所当時からの理念に基づき、毎月のケア会議で意見統一を徹底し常に理念に立ち戻り日々のケアに活かすよう努力しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の運動会や総合文化祭等の行事に参加し交流に努めている。 竹とんぼの行事にも地域の方々を招待し交流に努めたい。	地域との触れ合いを大切にしており、子供神輿や運動会、文化祭などへ参加すると共にホーム行事の参加呼び掛けなど相互交流に努めています。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長、主任スタッフが認知症サポーター養成講座の講師として講義を開催し、認知症ケアのあり方についてお伝えしている。（今年度は竹とんぼご家族様、地域住民に対して行いました。）		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度会議を開催し、事業所の現状を報告すると共に常に情報や意見を求め、サービスの向上に努めている。	家族、町内会長、介護福祉課主査、地域包括支援センター職員、法人本部及び施設長等が出席し、利用者の状況や事業報告、避難訓練実施内容など毎回テーマを決めて開催されています。そこでの情報や意見をサービス向上に活かしています。議事録は、全家族にも配布しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で意見交換している。 又、地域包括支援センターの担当者とは、日常的に課題等について相談している。	施設長が行政への連絡や報告を行うと共に運営推進会議などを活用し、福祉課や地域包括支援センター職員と意見交換をしています。グループホーム協議会の参加や認知症サポーター養成講座の開催などを行い、積極的に情報交換を行い、共同関係を築きつつサービス向上に取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等で学び、ケア会議の中でも内容を確認している。 全スタッフが共有した認識のもとケアの実践を行っている。 玄関は防犯上、夜間のみ施錠している。	身体拘束を防止するためのマニュアルは整備されています。また、外部・内部研修において、身体拘束の弊害について理解を深めています。日々のケアで気づいたことは職員間で相互に注意し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で学び、ケア会議の中でも内容を確認している。 入居者様の心身の変化に常時意識を持ち防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種の研修で学んだり、運営推進会議で地域包括支援センターから知識を得る等して活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族様が理解して頂ける様に時間をかけ説明を行っている。 解約時、改定等の際も同様に安心して頂ける様に説明に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ポスターを掲示し、苦情ボックスを設置している。 対策委員会もいつでも対応できるよう設けている。 又、事業所の運営規定、重要事項説明書に外部第三者委員の氏名を明記している。 ご家族様の訪問や電話等で近況報告し意見を聞き反映させている。	家族の来訪が多く来訪した際に意見や要望を伺うようにしています。また、会議などの場を活用して意見交換等を把握しています。なお、案内や電話で近況報告をしたり、ホームの様子などを掲載したホーム便りを送付し、情報提供しています。家族からの意見や要望は、施設長と職員間で共有し意向に沿うよう対応しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議や定期個別面談を実施し、スタッフの意見や提案を聞き反映させている。	開所当時からの職員が多く、職員同士も話しやすい関係で、毎月の会議でも様々な意見や提案が出され、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規定に従っている。 勤務実績表にて職員の状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を開催し学んだり、各種研修会に参加を奨励している。全スタッフが偏りなく参加できるよう配慮している。 又、ケア会議の中で研修報告を行い検討を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内や周辺地域の同業者の見学を受け入れたり、研修等で親交を深めている。市内のグループホーム連絡交流会に参加し連絡を取り入れやすいよう努めている。 施設長が苫小牧グループホーム連絡会世話人代表として活動している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	8	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所までに出来る限り情報を収集し、入所後もご本人様、ご家族様から伺う等し安心できる様に信頼関係が築ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族様から十分お話を伺い、入所後も継続して支援できる様に関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様と話し合い必要なケア環境を検討するように努めている。 又、入所申し込み時に他種の施設の案内をしており、その方にあったケアについて説明し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に基づき、入居者様それぞれの思いを受け止め、やりがいや生きがいをもっていただけるように必要な援助を行い、信頼関係が築けるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と同じ方向性の中でケアしていける様に、面会時や電話にて近況報告を行い、意見交換し共に支えていく関係づくりに努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望時の外出支援や面会を自由にして頂き、これまでの大切な関係が途切れないよう支援に努めている。	利用者が大切にしてきた人や場所との関わりを大切にしている情報を利用者や家族から確認し、関係継続の支援に努めています。入居前に住んでいた家や馴染みの美容室を訪れるなど、できるだけ本人の希望に沿うように、今できることを支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係性を大切に、過ごされる場所や時間に留意し、皆様が快適に過ごせるように入居者様同士の関係維持に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで築いてきた関係を大切にしていき、相談等があれば応えていけるように支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートやご家族様からの情報、入居者様との会話の中から得た情報等で、その人らしく過ごせるように、思いや希望を受け止め必要な援助を提供できるように努めている。	利用者の思いや意向は、生活歴や家族、利用者同士の会話などから確認しています。また、日々の関わりでその時々による表情や動作など職員の気づきにより把握し、その人らしい暮らしに繋がる支援が行われています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や好み等ライフヒストリー表に記載して頂き情報収集し把握に努め、サービス提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い、顔色や表情、精神状態等の変化に気を付け状態の把握に努めている。又、毎月のケア会議の中でモニタリングを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制にしているが、入居者様、ご家族様から希望を聞き反映させていくと共に、毎月モニタリングを行い、ケア会議の中で意見交換を行っている。その方にあった介護計画を作成して、状態に変化があった場合は現状に合わせた計画となるように変更を行っている。	毎月モニタリングを行い、担当職員が原案を検討してケア会議で協議し、家族や本人の望む生活を支援するケア計画を作成しています。ケア計画は、3ヵ月毎見直しを行い、状況変化時に随時見直すことにより現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のアセスメントシート記録、ケアプラン実施状況記録やスタッフ連絡ノートを活用し情報の共有、共感を行い、それを基に介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ご家族様の意見や要望を聞き、その方にとって最適な支援、サービス提供が常にできるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣、地域との関わりの中で互いにいつでも連絡が取り合える関係づくりに努めている。又、豊かな自然環境をケアに取り入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、ご家族様の希望に応じて、相談しながらかかりつけ医を決めている。協力医療機関の定期受診、往診、歯科の訪問診療等を行っている。看護師との医療連携体制も整っており適切な医療支援をしている。ご家族様にも協力頂き受診介助している。	利用者や家族の希望に沿ったかかりつけ医の受診が可能であり、時には職員が通院支援を行っています。また、協力医療機関の訪問診療も行っており、看護師との連携も整備されているため適切な医療支援体制となっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特別養護老人ホームの看護師と医療連携体制が整っており、日常的に入居者様の健康管理を行い協力医療機関においても、すぐに相談できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師、看護師、ソーシャルワーカー等と情報交換を行い、状態の把握とケアの方法等を話し合い、安心できるようにしている。 又、早期退院できるように配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の指針を整備している。 事業所として、できること、できないことをご家族様、医師、看護師、スタッフと話し合い方針を共有している。	終末期や看取りについての事前確認書を作成し、家族の方針や意向を確認して同意を得ています。重度化や終末期に向けた指針も作成して家族に説明し、同意を得ています。家族や医療関係者等と段階的な話し合いを持ち、方針を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習講座を受けており、マニュアル作成している。スタッフの連携により緊急に備えるよう取り組んでいる。スタッフで応急手当普及員がいるので定期的に訓練していきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練や通報訓練、消火器取扱い訓練を実施している。マニュアル、連絡網を整備している。 又、消防署、地域住民、併設施設との連絡体制が整っている。	年2回の昼夜想定避難訓練のほか通報訓練や併設の緑陽園との合同防災訓練の実施、AEDを含めた救命講習などが行われています。消防署や地域住民の方々、そして併設施設との協力体制が整っており、今後とも継続していく方針です。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳のある生活を援助している。 日々の中で一人ひとりのプライバシーに配慮し傷つけない声掛けや記録のとり方にも留意し対応している。	一人ひとりの人格を尊重し、トイレ誘導を含め日々の関わりの中で言葉かけや声のトーン、対応には十分な配慮を心がけています。個人記録は適切に管理されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしい生活が送れるように、好みや言動、意向を把握して自己決定して頂ける様に気持ちを尊重した支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースや気持ちに合わせたケアを心がけて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧や服装等、その方の好みや習慣を大切に尊重し維持できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設の栄養士が献立作成している。 スタッフも一緒に食事を摂り会話しながら空間を共有している。又、盛り付けや食器拭き等のお手伝いを負担にならない範囲で行って頂いている。	主菜は栄養士が献立作成した併設の施設から運ばれますが、味付けや調理方法盛り付けなど利用者の食欲に結びつくように工夫しています。職員は利用者と一緒に食事をとり、介助をしたり見守ったりしながらゆっくり食事の時間を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは併設施設の管理栄養士が作成しておりバランスの摂れた食事が提供できている。 入居者様の嗜好や形状に合わせて提供し、アセスメントシートに摂取量を記載し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の能力に応じて必要な支援をしている。 歯科往診により口腔内のチェックやアドバイスを頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を記録にて把握し、トイレ誘導や声掛け、見守り等行っている。 習慣を活かした自立支援を行っている。	職員は一人ひとりの排泄パターンを共有し、声かけや誘導などでトイレでの排泄支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握と排便状況を確認している。散歩や軽い運動を取り入れたり、粉末の食物繊維を取り入れたり工夫し予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は時間や曜日を決めず、入居者様の希望や体調、状態に合わせて実施している。 夜間も希望により入浴支援している。	広々とした浴室の大きな窓から豊かな自然環境の景色が一望できます。利用者の希望に沿った入浴支援を行い夜間入浴も実施しています。二人介助の利用者もありますがゆっくり気持ちよく入浴して頂けるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況、体調、生活習慣に応じて休息して頂ける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の内服薬情報提供表を作成しており、用法、用量、効能、副作用の把握に努めている。 又、体調に変化がないか観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じた役割や、やりがいを大切にすると共に、これまでの生活習慣を把握しながら支援している。ドライブ、買い物、洗濯たたみ、家事等無理のない様支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調に留意し、希望を尊重した中で散歩やドライブ、買い物、地域行事等季節感を取り入れた外出支援を実施している。	日常的に行われている散歩や全員参加の花見見学のほか、本人の希望を取り入れた買い物など個別対応をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望を理解し、希望時には気軽に使用できるよう見守りや声掛け等の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話をひいている方もおり、いつでもやりとりができるように支援している。 又、希望時や贈り物や手紙が届いた際、電話して頂ける様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や季節の花を飾ったり、季節に応じた飾り付けをしている。壁には入居者様の作品や写真を掲示している。又、ソファの配置や温度、湿度、音、照明に配慮した空間づくりに工夫している。	リビングは、広々として吹き抜けになっています。畳敷きの小上がりや複数のソファなどは利用者の意向に沿った配置にしてあり、それぞれ思い思いの場所で寛いでいます。施設長が描いた利用者の似顔絵や季節の飾りつけや写真も貼られており、設置しているオルガンで歌唱も楽しんでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれるスペースや皆様で過ごせるスペースもあり、居心地の良さの中にもプライバシーに配慮した空間づくりが出来るよう、家具の配置に留意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にクローゼットと洗面台が備え付けてある。入居時に使い慣れた家具やアルバム等お持ちいただける様お願いし、家庭環境に近い部屋づくりの工夫をしている。	居室内は明るく洗面台とクローゼットが備え付けてあります。利用者と家族が相談しベッドの位置などそれぞれ暮らしやすいように配置されています。馴染みの家具や生活用品、趣味の物が自由に持ち込まれ、家族の写真なども飾られており安心してゆっくり過ごせる居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダー、時計、手すりの設置や、トイレの場所、ご自分の居室がわかるように表札や顔写真を掲示している。又、安全に配慮して家具等の位置に留意している。		